

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 1月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4270104989		
法人名	ラッキー自動車 株式会社		
事業所名	グループホーム 陽光の家		
所在地	〒852-8121 長崎県長崎市三川町924番5号 (電話)095-813-0166		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年1月20日	評価確定日	平成21年2月12日

【情報提供票より】(H20年12月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年	1月	31日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	9 人	常勤	7 人,	非常勤 2 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,460 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(12月29日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低 78 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三原台病院 ・ しらいし歯科
---------	----------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣の住宅街に自然と溶け込んだ佇まいで、普通にありのままの暮らしが営まれている。管理者や計画作成担当者のサービスの質の向上を目指す意識がとて高く、職員のチーム力も結束している。そんな中、入居者は、ゆっくり、のんびり、自由に暮らしている。地域の方々も、散歩の途中など気軽にホームに立ち寄られ、世間話に花を咲かせることもある。地域から常に気が付けてもらい見守られ、ホームも地域貢献を心がけており、地域と密着した暮らしのあるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善点は、即改善計画シートを活用し取り組んでいる。加えて外部評価の結果を運営推進会議で公表し、家族に送付、来訪者にも見てもらえるよう玄関に置き、広範囲に意見を求めサービスの質の向上を目指している。もう一つの指摘事項である玄関横のゴミ箱は、近隣の方からも同じ指摘を受けていたこともあり、その日のうちに移動している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ミーティングの際、管理者をはじめ全職員で自己評価の項目の一つひとつ読み上げながら理解を深め、意見を出し合っている。話し合った結果を、管理者と計画作成担当者でまとめている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議ではホームの活動および現状報告の他、地域包括支援センター職員による「認知症の理解と援助」や権利擁護についての勉強会、転倒事故報告、外部評価の公表など、様々な議題を用意し、意見交換を行っている。率直な意見が出されるよう、会議のテーマを工夫し、内容によっては警察、消防署関係者の参加の働きかけなども検討している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	年に1回家族会を開催しているが、意見があまり出されない。そんな中、今年度はご家族から「何かできることはないか?」との意見を頂き、管理者をはじめ職員は家族の意識の進歩に喜ばれていた。今後さらに家族会が結束されていくことを管理者は期待されている。又、運営推進会議には、家族会代表も参加されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	老人会に入会している入居者がおられ、管理者も入会し、日帰り旅行等の行事と一緒に参加している。また、ホームは自治会に加入し、地域行事にも積極的に参加している。さらにホームを開放することで風通しをよくし、近隣の方に心配りをいただいている。管理者と職員は、地域のためにホームにできることはないかと常に模索され、近隣の高齢者が困っておられる時はさりげなく支援し、また、地域の協力を得ながら「子ども110番」の申請を行うなど、積極的に地域に貢献している。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム理念である『ゆっくり、のんびり、自由に、ありのままに』は、開設当初より継承されている。理念の言葉通りに支援すること、即ち地域の中でその人らしく暮らすことであると捉え、日々実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員が入居者と関わる上で大切にしている想いと理念が一致しており、自然と体に染み込み、理念が支援に活かされていることが窺える。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会に入会している入居者がおられ、管理者も入会し、日帰り旅行等の行事と一緒に参加している。また、ホームは自治会に加入し、地域行事にも積極的に参加している。さらにホームを開放することで風通しをよくし、近隣の方に心配りをいただいている。ホーム行事の際には近所の方にも声をかけ、参加してもらい、交流を大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングの際、管理者をはじめ全職員で自己評価の項目を一つひとつ読み上げながら理解を深め、意見を出し合っている。外部評価を年に一度の振り返りの機会と捉え、改善計画シートを活用し、即改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの活動および現状報告の他、地域包括支援センター職員による「認知症の理解と援助」や権利擁護についての勉強会、転倒事故報告、外部評価の公表など、様々な議題を用意し、意見交換を行っている。率直な意見が出されるよう、会議のテーマを工夫し、内容によっては警察、消防署関係者の参加の働きかけなども検討している。		

グループホーム 陽光の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員を受け入れている。また、質問や相談は随時電話で行い、市も協力してくれている。市主催の研修会等にも参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ひかり便り」を発行し、個別に写真を掲載し、病院受診状況や行事、日常生活など、定期的に報告している。また、遠方に住む家族への報告や、個々にあわせた報告も随時電話で行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族会を開催しているが、意見があまり出されない。そんな中、今年度はご家族から「何かできることはないか?」との意見を頂き、管理者をはじめ職員は進歩だと喜ばれていた。今後さらに家族会が結束されていくことを管理者は期待されている。運営推進会議には、家族会代表が参加されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はなく、離職の際は、入居者との別れ方によってその直後のダメージが大きくなることを経験として心得られ、今後離職の告げ方を職員へ指導し、配慮していきたいとしている。また、新任の際は、まずは信頼関係を築くことに重点を置いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて外部研修を受ける機会を設け、全職員を対象に他のグループホームへの研修や救急救命講座の受講機会を確保している。また、希望に応じ資格取得についても勤務体制を考慮する等の協力もある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修会やボーリング大会に参加し、管理者のみならず職員も一緒に交流を深めている。また、入居者同士も風船バレー大会を通じ、グループホーム間で交流する機会がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>まずは見学にてホームの雰囲気を知ってもらい、本人とも面接を行い、ホーム生活に馴染めるかどうかの判断を行う。病院等からの紹介の際はその関係者からの情報を得ながら、最終的にミーティングにて職員に回り入居決定を行っている。入居開始後はまずホームの環境に慣れてもらうことに重点を置き、コミュニケーションが十分に図れるよう心がけている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者と同じ時間を過ごす中で、例えば礼儀作法や料理の味付けなど学ぶことが多々ある。また、入居者のさりげない優しい言葉かけに心癒されることもある。嬉しい時も苦しい時も共に分かち合える関係である。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の思いや意向、家族や関係者からの情報はもちろんのこと、日常の会話や表情からも汲み取り、課題分析表に書き留め、介護計画に反映している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者は、介護計画の本質について熟知されている。本人や家族の希望を聴き、多面的な情報を基に、ミーティングにて全職員で検討し、入居者のできることへの支援が織り込まれた介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的モニタリングを行い、現状に即していなければ計画の変更を行っている。本人や家族と話し合い、職員で検討しながら、介護計画は常に「足したり引いたり」を繰り返し、個々の実状に沿った計画となっている。</p>		

グループホーム 陽光の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院受診について家族が対応困難な場合は柔軟に支援している。また、個々に行きたい所への外出や好きなお店での食事の機会を設けている。家族が来られた際には、一緒に食事を楽しんでもらったり、面会時間は設定せずいつでもゆっくり過ごしてもらえよう配慮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を基に、受療支援を行っている。必要に応じて通院介助を行い、入居者によって往診していただく場合もある。かかりつけ医とは、相談し指導を受ける関係が築かれており、受診後は家族への報告も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでにホームでの看取り介護の希望や看取った経験はない。終末期を迎えるにあたり、家族と話し合い意向を確認し、かかりつけ医とも相談をし、全員で方針を決め共有していきたいとしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の気持ちになって、一つひとつケアを行う毎に声かけするよう心がけている。実際に、優しく丁寧な声かけがなされていた。個人情報についても、人目に触れないよう管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念の言葉通りの支援が実践されており、「ゆっくり、のんびり、自由に、ありのままに」本人のペースで過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	魚の移動販売があり、新鮮な魚を目の前で購入でき、その日の魚の種類によって献立が決まることもある。リビングの一角にキッチンがあり、調理の音や匂いで五感が刺激される。個々の能力に合わせ、食材の下処理や下膳等を一緒に行い、職員も共に食卓を囲み、楽しい語らいがある。食事の味付けや彩りもよく、目でも食事を楽しむことができる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間帯はおおよそ決まっているが、皮膚疾患がある場合や本人の気分などに合わせ柔軟に対応している。入浴支援が困難なケースは、介助方法を変更して試みるなど、入浴を楽しめるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや食事の下膳は、個々の能力に応じ各自でもらうようにしている。庭の散歩や買い出しの荷物持ち、近所の人に遊びに行くなどそれぞれに役割や楽しみごとがある。また、担当職員と好きなお店に食事に行くなど、気晴らしの支援も行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣を散歩したり、買い物に出かけたり、近くに友達の家がある方は遊びに行かれ、庭の散歩を日課とされている方もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は車の往来のある道路に面しているが、昼間は施錠することなく、門扉も開放している。外出傾向のある方もいるが、「いつでも出入りできますよ」という職員の寛容な見守りの姿勢があり、また歩行練習も兼ね職員も一緒に外出に付き合うことにより問題は生じない。地域の方も常に気にかけておられ、見守られた環境にある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、避難訓練を実施し、地域との協力関係も築けている。しかし、出入り口が玄関とその延長線上にある掃き出し窓のみで、また災害に備えた備品等についての検討がされていない。災害時の個人情報を持ち出し(名札等の準備)については、検討を始めている。		夜間、職員が一人の時を想定した避難訓練の実施や、様々な想定での避難経路を再考し、複数の出入り口の必要性の検討と、災害時の備蓄についての検討を期待したい。

グループホーム 陽光の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考慮し、30品目を目標に献立を作っている。提供した食事については、食育推進員である知人の栄養士の方にカロリー計算をしてもらい、指導を受けている。昼間はお茶、夜間は白湯をペットボトルに個別に常備し、水分をこまめに摂るようにし、飲水量も把握できている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が活けられ、水槽に金魚が泳ぎ、可愛い人形の置物で心地よく出迎えてくれる。リビングは窓も大きく程よい光が射し、外の様子もうかがえ、開放的な空間となっている。ソファや椅子も個々の居場所等を考慮された配置となっており、壁には思い出の写真が飾られ、家庭的な雰囲気が感じられた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームからはベッドと床頭台のみの提供で、その他は持ち込みで個々の馴染みのものに囲まれた空間となっている。家族との思い出の写真などが飾られていたり、本人の生活習慣を重視したものの選択や配置がなされ、本人の居心地の良さに配慮されている。		